

## そして黄櫨はぜの木は残った

薪は杉アトリエにとって薪ストーブの燃料になり、ブロンズ製造利用としても必要である。いくらあっても事足りるという事はない。

先日、友人から「大木を切り倒し、玉切りにしたので必要であるなら取りに来てほしい」というありがたい申し出があった。

早速、様子を見に行くと、楠の皮に似た大木が横倒しにされており、枝はすでにまとめて積み上げられていた。楠ならば匂いですぐにわかるけれども、そうではなかった。

切断面は杉のように赤くなく、代わりに美しい黄色をしていた。大木だったので、太い蔓が巻きついていて、他にも小木を玉切りにし、雑木なども混ざっていたが、全部持って行ってもよいとのことだったので、ありがたく軽トラツクで三往復分戴いたのだった。

アトリエに帰り、早速巻き割り機で薪にして、アトリエ燃料として保管庫に積み上げた。戦利品をいっぱい手に入れた喜びで、疲れたけれど満足な一日のはずだった。

ところが、である。

夜になって両腕に湿疹が現れ、猛然と痒くなった。

思い当たるのはもちろん昼間に運んだ材木だ。検索してみると、それにそっくりな色の材が見つかった。薪にはおすすめされない「ハゼ」である。色かたちが写真とそっくりだったので、間違いようがなかった。

ただ、ハゼは普通直径三〇cm高さ一〇mと説明されているが、そうではなかった。

その倍の太さに成長していたのだが、たまに巨木になることもあるらしい。その点を見落としていたようだ。鹿児島空港のすぐそばで育ち、周囲は茶畑なので日当たりも良く、すくすく育っていたのだろう。自分の場合、湿疹とかゆみだけで症状は軽い方だったようだ。冬場だったので木は水分が少なく、長袖に軍手装備だったことも運が良かった。散々な思いの一日だった。

今は痒みも取れて、思い返すと笑い話。残念なのは、一冬分はある量のハゼを坂道のり面にばらまいて薪として使えない口惜しさが残った。

2024年3月



運びきれずに残った  
ハゼの大木→



乾燥庫いっぱいハゼ。  
使ってはいけないことがわかり、  
アトリエ外構になりました。

